

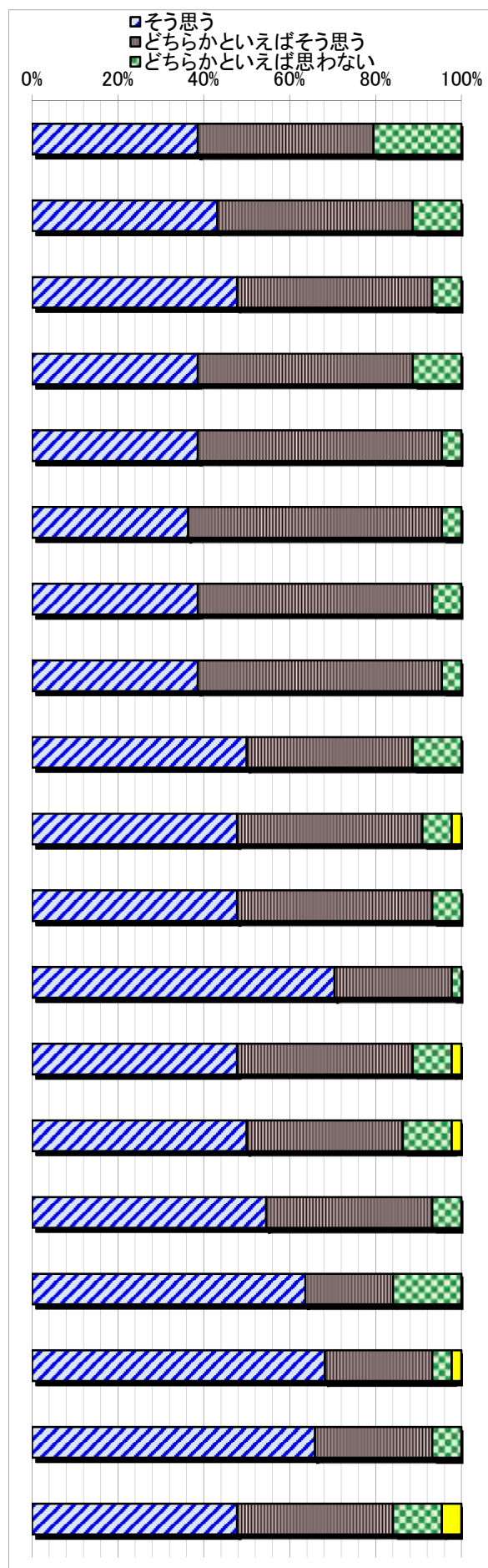
学校評価アンケート集計結果（保護者）

全体

集計

令和4年12月22日

		そう思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない	平均
学校の取組について	① 学校教育目標や教育方針についてわかりやすく伝えられている。	39%	41%	20%	0%	3.18
	② 保護者や地域の方と連携して、教育活動を進めている。	43%	45%	11%	0%	3.32
	③ 授業参観や行事などは参加しやすいように計画されている。	48%	45%	7%	0%	3.41
	④ 一人一人の子供を理解して、きめ細やかな指導が行われている。	39%	50%	11%	0%	3.27
	⑤ 施設・設備など安全な生活ができるよう環境整備ができています。	39%	57%	5%	0%	3.34
	⑥ 子どもをよく理解し、いじめなど問題行動があった時素早く対応してくれる。	36%	59%	5%	0%	3.32
	⑦ 家庭への連絡や意思疎通をきめ細やかにしている。	39%	55%	7%	0%	3.32
	⑧ 体力向上・健康増進に努めている。	39%	57%	5%	0%	3.34
	⑨ 教科の基礎・基本の定着や学力向上に向けて積極的に取り組んでいる。	50%	39%	11%	0%	3.39
	⑩ 学習や健康等について相談しやすい雰囲気である。	48%	43%	7%	2%	3.36
	⑪ ふるさとの歴史や文化などについての学習に積極的に取り組んでいる。	48%	45%	7%	0%	3.41
お子様の様子について	⑫ 楽しく学校に行っている。	70%	27%	2%	0%	3.68
	⑬ 授業がわかりやすいと言っている。	48%	41%	9%	2%	3.34
	⑭ あいさつができています。	50%	36%	11%	2%	3.34
	⑮ 友達と仲良く遊び友達を大切にしている。	55%	39%	7%	0%	3.48
	⑯ 学校での出来事についてよく会話をしている。	64%	20%	16%	0%	3.48
	⑰ 宿題や家庭学習をきちんとしている。	68%	25%	5%	2%	3.59
	⑱ ふるさとのことが好きである。	66%	27%	7%	0%	3.59
	⑲ 家庭ではゲームやテレビのルールを決め、守っている。	48%	36%	11%	5%	3.27



数値は、小数第1位を四捨五入したものであり、合計は100にならないこともある。

R4 学校評価 保護者アンケート結果

(回収率92%)

本年度、本校は『自他を尊重し、ふるさとを愛し、豊かな心を持ってたくましく生き抜く児童を育てる』を学校教育目標に掲げ、これを達成するため次の7つの努力事項を設定しました。

- ① 基本的生活習慣の育成を図り、進んであいさつのできる子どもを育てる。
- ② 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に努め、「楽しくよくわかる授業」を展開する。
- ③ 人権教育の推進を図り、自己有用感・自己肯定感を育成する。
- ④ 個に応じた教育を推進し、特別支援教育の充実を図る。
- ⑤ 家庭・地域と連携・協働し、ふるさとに誇りを持ち、豊かに生きる子どもを育てる。
- ⑥ 「安心・安全で美しい学校」にするため、教育環境の整備に努める。
- ⑦ 業務改善やワークライフバランスの推進に努め、働きやすい職場づくりを推進する。

年度末を迎え、これらの取り組みをふり返るとともに、12月に実施したアンケート結果も踏まえ、来年度に向けての具体的な教育活動の検討を行いましたので、集計結果と共に報告します。

※ 回答のうち「よくできている・できている」を肯定群、「あまりできていない・できていない」を否定群と設定
※ 数値は四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。

1 学校教育目標や教育方針について分かりやすく伝えられている。

保護者の回答の約20%(R3:21%, R2:14%)が否定群でした。情報提供する機会を増やすため、ホームページ(以下、HPと表記します。)や校長室だより、授業参観・個人懇談等で学校の教育方針や児童のよい面を機会をとらえてお伝えしてきました。今後とも、伝え方の方法を工夫しながら、学校の方針や考え方がより分かりやすく伝わるよう努めていきます。

2 保護者や地域の方々と連携して教育を進めている。

保護者の回答の88%(R3:87%, R2:97%)が肯定群でした。様々な教育活動で、地域の方々にゲストティーチャーとして教えていただいたり、PTA活動に協力いただいたりしています。今後も学校を支えていただいている皆様と連携して進めていきたいと思っています。

3 授業参観や行事などは、参加しやすいように計画されている。

保護者の回答の93%(R3:87%, R2:91%)が肯定群でした。各行事終了後は、行事を振り返り、さらに参加しやすい計画になるよう努めています。また、お便りやHP、マチコミでの連絡を活用して、できる限り早く連絡し、たくさんの保護者の皆様が参加しやすいようにしていきます。

子どもたちに学力をつける「授業」を大切にしつつ、行事や様々な活動への取組をとおして、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成のために、バランスのとれた年間行事計画を作成していくようにしていきます。

PTA行事について、日程や参加のあり方や負担が増えていることについてのご意見もアンケートを通じていただきました。来年度のPTA活動計画をPTA役員の皆様と作成する際の参考にさせていただきます。

4 一人一人の子どもを理解し、きめ細やかな指導が行われている。

保護者の回答の11%(R3:13%, R2:18%)が否定群でした。教職員全員で海部小学校一人一人を育てることを進めてきましたが、さらに一人一人にきめ細やかな指導ができるよう児童理解を深め、学校づくりを進めていきます。

5 施設・設備など安全な生活ができるよう環境整備ができています。

保護者の回答の5%（R3:8%, R2:9%）が否定群でした。なお一層, 児童が安全な環境で教育活動ができるよう, 日々の点検, 毎月行っている施設の安全点検において修理する箇所は早急に修理するとともに, 施設・設備改善についても町教委へお願いしています。

6 子どもをよく理解し, いじめなど問題行動があったとき素早く的確に対応している。

保護者の回答の5%（R3:10%, R2:12%）が否定群でした。私たちは, 海部小学校いじめ防止基本方針（HPにも掲載）をもとに, 「いじめは海部小学校にもある。いじめは絶対に許されない。」との認識のもと, 指導に当たっております。私たちが気付いていないことやお子様について気になることがございましたら, ご連絡ください。いじめや問題行動等は, 当事者に指導するとともに, 当事者だけでなく, 適切に判断した上で学級の問題としても取り上げて指導しています。教員のわからないところでのいじめが起きないように学級経営をさらに見直し, 観察や相談活動をチームとしてしっかり行い, 教員相互の情報交換を密にしながらいじめのない学級・学校づくりを進めていきます。

7 家庭への連絡や意思疎通をきめ細やかに行っている。

保護者の回答の94%（R3:84%, R2:90%）が肯定群でした。今後も, 担任は保護者と連絡を密にとり, 良いこともいけないことも伝え, 学校と家庭の両輪で子どもたちを育てていく関係づくりを進めていきます。

8 体力向上, 健康増進に努めている。

保護者の回答の5%（R3:8%, R2:9%）が否定群でした。金曜日朝の活動でにこにこ班で遊ぶ活動を計画・実施しています。遊びを通してルールを考えたり, 朝から体を動かしたりして, 1時間目からすっきり学習が始められるという効果もあります。今後も異学年交流でのいろいろな運動を体験させ, 体力向上, 健康増進に取り組んでいきます。

9 教科の基礎・基本や学力向上に向けて積極的に取り組んでいる。

保護者の回答の89%（R3:90%, R2:90%）が肯定群でした。海部小学校は, 独自の「のびっこテスト」を活用し, 児童の基礎・基本の定着を図っています。さらに, 昨年度導入された一人一台iPadも活用して, 授業改善に努め, わかる授業に取り組んでいきます。

児童アンケートでは, 「本をよく読みますか」に対して10%（R3:18%, R2:40%）が否定群の回答で, 読書への関心の高まりを感じます。読書は, 文字に親しみ, 豊かな心を育てる大切なものであり, 考える力の土台を育てる機会でもあります。引き続き, 読み聞かせや移動図書館利用など教育活動の中に読書の機会を位置づけ継続していきたいと考えています。

10 学習や健康等について相談しやすい雰囲気である。

保護者の回答の9%（R3:8%, R2:2%）が否定群でした。子どもたちのよりよい成長のために, 保護者の皆様がより相談しやすい環境となるよう取り組んでいきます。

11 ふるさとの歴史や文化などについての学習に積極的に取り組んでいる。

保護者の回答の93%（R3:92%, R2:97%）が肯定群でした。海部小学校はふるさと教員制度のあった歴史を持っています。総合的な学習の時間を中心に, ふるさとの歴史や文化, 自然を学ぶ体験学習をさらに進めていきます。

12 楽しく学校に行っている。

保護者の回答の97%（R3:97%, R2:91%）が肯定群でした。児童が充実した学校生活を送れるように, 充実感を持っていない児童の理由をしっかりと確認し, 児童全員が充実した学校生活を送っていると実感できるように今後も努力していきます。

13 授業が分かりやすいと言っている。

保護者の回答の11%（R3:21%, R2:11%）が否定群でした。授業ではすべての児童が「わかった」と充実感を持たせるように授業を改善に取り組んでいます。さらに、授業改善に努めるとともに、個別最適な学びの実現と継続を目指し、児童一人ひとりのつまづきを把握し、個に応じた指導を進めていきます。

14 あいさつができています。

保護者の回答の13%（R3:18%, R2:11%）が否定群でした。毎朝のあいさつ運動を行い、校内ではあいさつが進んでできる子が少し増えてきたようです。児童の中には恥ずかしがって自分から進んでできない子や声が小さい子もいます。「いつでも、どこでも、誰にでも、さわやかに」あいさつできる児童を育てたいと指導を継続していきます。ご協力よろしくお願ひします。

15 友達と仲良く遊び、友達を大切にしている。

保護者の回答の94%（R3:90%, R2:90%）が肯定群でした。海部小学校の伝統である上学年児童が下学年児童を思いやる・いたわる姿は、学校生活の中でもよく見られます。自他のよさを認め合う教育活動に力を入れること、休み時間の教員による見守りを今後とも進めていきます。

16 学校での出来事について、よく会話をしている。

保護者の回答の84%（R3:90%, R2:86%）が肯定群でした。普段から家庭でよく話がされていることをうれしく思います。学校生活の様子は、学級・学校からのお便りや校長室だより「かいふ川」、HP等で発信していきます。お子様との会話の中で、気になることがありましたら、お気軽に学校へ連絡ください。

17 宿題や家庭学習をきちんとしている。

保護者の回答の93%（R3:84%, R2:89%）が肯定群でした。学校で学んだことを宿題として出し、「自主学習ノート」をすることを子どもに勧めています。学習する時間は、「家庭学習の手引き」にも、「学年×10分」を目安として示しています。家庭での学習習慣の大切さを引き続き子どもたちに指導していきます。

18 ふるさとのことが好きである。

保護者の回答の93%（R3:85%, R2:100%）が肯定群でした。児童への設問12「ふるさと海部のことが好きである」という問いに対して、児童の回答の94%（昨年度91%）が肯定群でした。「設問11」に書いたように、まず、ふるさとのことを知ることが大切であると考えています。地域の歴史や文化、自然の豊かさを学ぶことのできる学習を計画的に進めていきます。

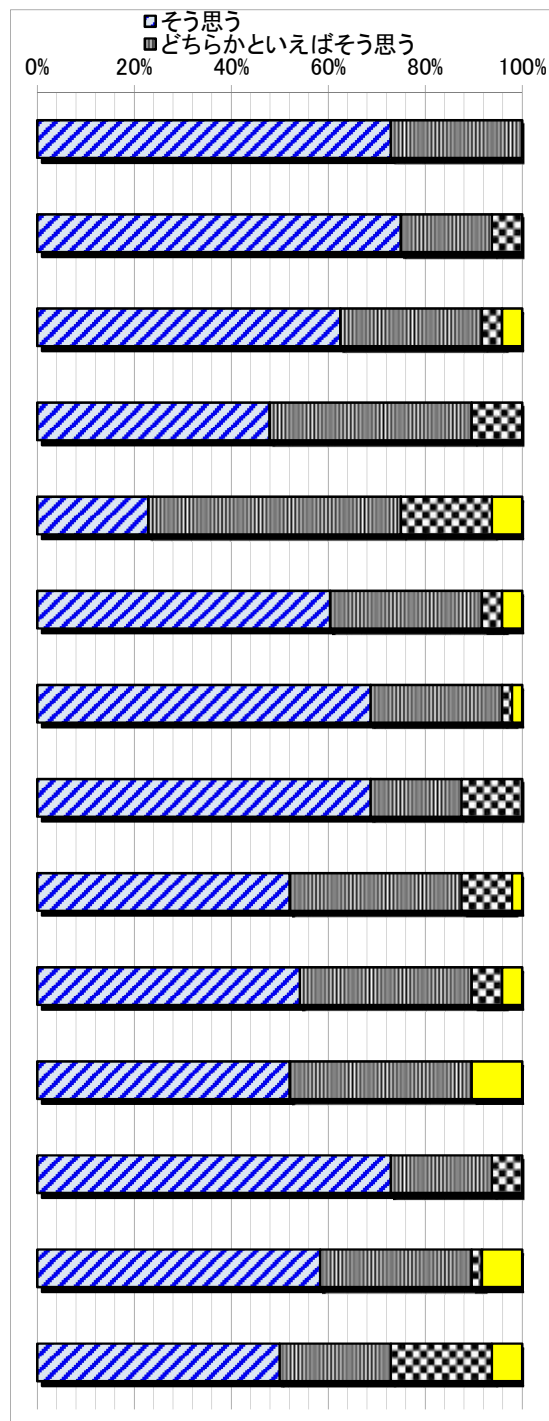
19 家庭ではゲームやテレビのルールを決め、守っている。

保護者の回答の84%（昨年度74%）が肯定群でした。児童への設問14「家でテレビやゲームのルールを決め、守っている」という問いに対して、児童の回答の74%（昨年度84%）が肯定群でした。子どもたちの心身の健康とネットトラブル回避のために、使う責任と使い方の判断を身につけていけるよう、留意するポイントを指導していきます。家庭でも時間やアプリの内容・使い方等について、ルールを振り返り見直すなど話し合ってくださいようお願ひします。

学校評価アンケート集計結果・考察（児童）

令和4年12月22日

		そう 思う	どちら かとい えそう 思う	どちら かとい え思わ ない	思わ ない	平均
①	学校の生活は楽しい。	73%	27%	0%	0%	3.73
②	あいさつができています。	75%	19%	6%	0%	3.69
③	宿題や家庭学習をきちんと している。	63%	29%	4%	4%	3.50
④	勉強したことがよくわかる。	48%	42%	10%	0%	3.38
⑤	自分が思ったことや考えたこ とを公表している。	23%	52%	19%	6%	2.92
⑥	友達が困っていたら、声をか けたり助けたりしている。	60%	31%	4%	4%	3.48
⑦	友達と仲良くしている。	69%	27%	2%	2%	3.63
⑧	きまりを守って安全やけがに 気をつけている。	69%	19%	13%	0%	3.56
⑨	休み時間など、外遊びをして 運動している。	52%	35%	10%	2%	3.38
⑩	本をよく読んでいる。	54%	35%	6%	4%	3.40
⑪	ふるさと海部のよさを知って いる。	52%	38%	0%	10%	3.31
⑫	ふるさと海部のことが好きで ある。	73%	21%	6%	0%	3.67
⑬	学習や運動は、最後まであきら められないでしている。	58%	31%	2%	8%	3.40
⑭	家でゲームやテレビのルール を決め、守っている。	50%	23%	21%	6%	3.17



数値は、小数第1位を四捨五入したものであり、合計は100にならないこともある。

【考察と課題】

めざす児童像「かいふっこ」目標達成アンケートを行った。課題として次のことがあげられる。

・設問2「あいさつができています。」という問いに対して、「そう思う」「どちらかというと思う」と答える児童が94%（昨年度91%）であった。今年度もあいさつ運動に取り組んでいるが、自分から進んであいさつができなかったり、場面に応じたあいさつができなかったりすることが見受けられるようである。今後も進んではきはきと、時と場に応じたあいさつができるよう、示範や褒め方の共通理解など続けて取り組んでいく。

・設問4「勉強したことがよくわかる。」という問いに対して、「どちらかかといえそう思わない」「そう思わない」と答える児童が全体で10%（昨年度14%）であった。個別指導においてもタブレットを活用した個別最適な学びを充実しようと取り組んできているが、よりいっそうよく分かる学習のための手立てを個別に追究していくとともに、宿題や家庭学習習慣の定着とともに引き続き取り組んでいく。

・設問5「自分が思ったことや考えたことを公表している」という問いに対して、「どちらかかといえそう思わない」「そう思わない」と答える児童が全体で25%（昨年度24%）であった。伝え合う場面を各教科・特別活動で計画的に実施してきているが、児童にとっては主体的に行えていないと感じていることが考えられる。今後もICTを活用した協働学習を工夫するなど、主体的に伝え合う児童の育成に向けた取り組み続けていく。

・設問8「きまりを守って安全やけがに気をつけている。」という問いに対し、「どちらかかといえそう思わない」「そう思わない」と答える児童が全体で13%（昨年度0%）であった。大きな事故・けがはないものの、今後、めざす児童像「いのちを大切にす子」の育成のために、交通安全の守り方をはじめ、校舎内や校舎外での遊び方や過ごし方のきまりについて理解し行動できるように指導を継続していく。

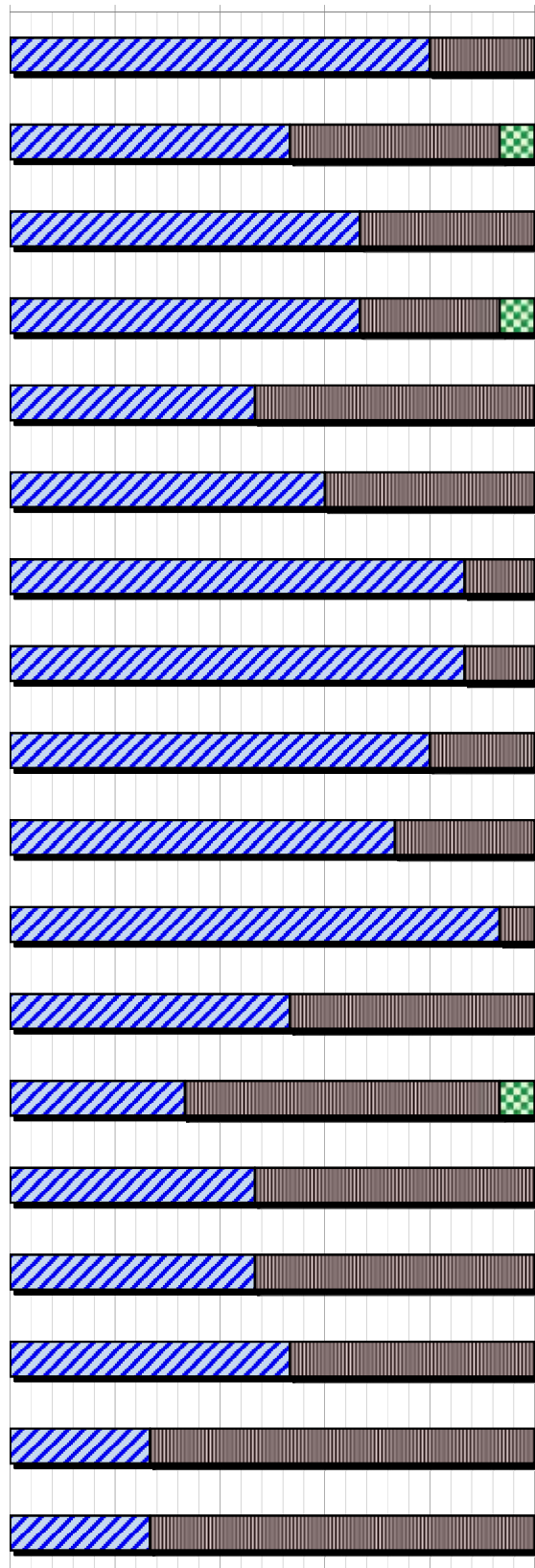
・設問14「家でゲームやテレビのルールを決め、守っている。」という問いに対して、「どちらかかといえそう思わない」「そう思わない」と答える児童が全体で27%（昨年度16%）であったが、保護者への同じ問いに対して否定的な回答が全体で16%（昨年度26%）だった。家庭との連携のもと、児童の実態を把握し、健康への影響やネットトラブル等についての予防的な支援・指導や情報提供を継続して進める。

学校評価アンケート集計結果（教職員）

令和4年12月22日

		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらか といえば 思わない	思わない	平均
①	校長は、教育方針や学校経営について、考え方を明らかにしている。	80%	20%	0%	0%	3.80
②	教職員は協力し合い、学校として同じ方針で教育活動が行われている。	53%	40%	7%	0%	3.47
③	全教育活動を通して、自他の人権を大切にする教育を進めている。	67%	33%	0%	0%	3.67
④	いじめの早期発見、早期解決に向けて努力している	67%	27%	7%	0%	3.60
⑤	特別な支援を要する児童に対し、積極的に関わり支援を行っている。	47%	53%	0%	0%	3.47
⑥	気軽に話し合える温かい職場の雰囲気がある。	60%	40%	0%	0%	3.60
⑦	保護者からの学習や生活に関する相談や連絡に丁寧に応じている。	87%	13%	0%	0%	3.87
⑧	地域教材や価値ある体験活動を計画的に位置づけ実践している。	87%	13%	0%	0%	3.87
⑨	ふるさとを愛する心を育てる学習に積極的に取り組んでいる。	80%	20%	0%	0%	3.80
⑩	「わかる授業」の実現のために、教材研究等を積極的に行っている。	73%	27%	0%	0%	3.73
⑪	授業では、ICTの積極的な活用に努めている。	93%	7%	0%	0%	3.93
⑫	授業では、個に応じて指導を実現するために努力している。	53%	47%	0%	0%	3.53
⑬	多様な話し合いを取り入れ、伝え合い、学び合いができる授業展開に努めている。	33%	60%	7%	0%	3.27
⑭	資質と指導力の向上を目指し、充実した研修が行われている。	47%	53%	0%	0%	3.47
⑮	体力・健康づくりに向けた指導を推進している。	47%	53%	0%	0%	3.47
⑯	安全に生活できるように施設設備・防災・不審者対応を徹底している。	53%	47%	0%	0%	3.53
⑰	あいさつの励行を積極的に進めている。	27%	73%	0%	0%	3.27
⑱	働き方改革や業務改善に向けた意識改革や取り組みが行われている。	27%	73%	0%	0%	3.27

■ そう思う
■ どちらかといえばそう思う
■ どちらかといえば思わない
■ 思わない



数値は、小数第1位を四捨五入したものであり、合計は100にならないこともある。

R4 自己評価 教職員アンケート考察

本年度、本校は『自他を尊重し、ふるさとを愛し、豊かな心を持ってたくましく生き抜く児童を育てる』を学校教育目標に掲げ、これを達成するため次の7つの努力事項を設定しました。

- ① 基本的生活習慣の育成を図り、進んであいさつのできる子どもを育てる。
- ② 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に努め、「楽しくよくわかる授業」を展開する。
- ③ 人権教育の推進を図り、自己有用感・自己肯定感を育成する。
- ④ 家庭・地域と連携・協働し、ふるさとに誇りを持ち、豊かに生きる子どもを育てる。
- ⑤ 個に応じた教育を推進し、特別支援教育の充実を図る。
- ⑥ 「安心・安全で美しい学校」にするため、教育環境の整備に努める。
- ⑦ 業務改善やワークライフバランスの推進に努め、働きやすい職場づくりを推進する。

年度末を迎え、これらの取り組みをふり返るとともに、12月に実施したアンケート結果も踏まえ、来年度に向けての具体的な教育活動の検討を行いましたので、集計結果と共に報告します。

※ 回答のうち「そう思う・どちらかといえばそう思う」を肯定群、「どちらかといえば思わない・思わない」を否定群と設定

【考察】

1 校長は、教育方針や学校の経営について、考えを明らかにしている。

教職員の回答の100%が肯定群であった。また、保護者の設問①「学校教育目標や教育方針について分かりやすく伝えられている。」に対する回答の約80%（昨年度80%、一昨年度86%）が肯定群だった。

年度当初、学校経営グランドデザインを示し、終礼・職員会等で伝える内容を時機を見ながら伝えるように心がけた。保護者に対しては校長室だよりとHPで適宜伝えてきたが、より分かりやすく伝える構成を工夫しなければいけないと考える。また、担任・担当からも保護者への説明の工夫について協議しながら今後実践していく。

2 教職員は協力し合い、学校として同じ方針で教育活動が行われている。

教職員の回答の93%（昨年度86%）が肯定群であった。設問1との関連で見れば学校の経営方針を適時に、具体的に、個別に示すことができていなかったことが考えられる。互いに多忙な中、限られた時間で「共通理解すること」をより優先し、長・中期展望にたち、より早めの段階から企画委員会での協議、各主任・担当の立案を促し、共通理解と共通実行がスムーズに行えるよう、校長としてのマネジメントを改善していく。

4 いじめの早期発見、早期解決に向けて努力している。

教職員の回答の94%（昨年度100%、一昨年度92%）が肯定群であった。一方、保護者の設問⑥「子どもをよく理解し、いじめなど問題行動があった時素早く対応してくれる」の回答の5%（昨年度10%、一昨年度12%）が否定群だった。

教職員は、海部小学校いじめ防止基本方針をもとに、「いじめは海部小学校にもある。いじめは絶対に許されない。」との認識のもと、指導に当たって行かなければならない。まず、教職員のわからないところでのいじめが起きないように学級経営をさらに見直し、観察や相談活動をしっかり行う。教員相互の情報交換とともに家庭との連絡を密にしながらいじめのない学級・学校づくりを進めていく。

7 家庭への連絡や意思疎通をきめ細やかに行っている。

教職員の回答の100%が肯定群であった。

一方、保護者の設問②「保護者や地域の人と連携して、教育活動を進めている」の回答の88%（昨年度87%）が肯定群である。また、設問⑦「家庭への連絡や意思疎通をきめ細やかに行っている。」に対しては、否定群の回答が7%（昨年度15%）である。

今後も、担任は保護者と連絡を密にとり、良いこともいけないことも伝え、学校と家庭の両輪で子どもたちを育てていく関係づくりを進めていく。

8 地域教材や価値ある体験活動を計画的に位置づけている。

教職員の回答の100%が肯定群であった。

9 ふるさとを愛する心を育てる学習に積極的に取り組んでいる。

教職員の回答の100%が肯定群であった。

保護者の設問⑪「ふるさとの歴史や文化などについての学習に積極的に取り組んでいる。」の回答の約93%（昨年度92%）が肯定群である。また、設問⑫「ふるさとのことが好きである（と子どもが言っている）。」の回答の93%（昨年度85%）が肯定群だった。

海部小学校はふるさと教員制度のあった歴史を持っている。総合的な学習の時間を中心に、ふるさとの歴史や文化、自然を学ぶ体験学習をさらに計画的に進める必要がある。ふるさとのことを知ることが大切であり、地域の歴史や文化、自然の豊かさを学ぶことのできる学習を進めていく。

10 「わかる授業」の充実に努めるとともに、ICTを活用し、個に応じた指導内容など、教材の精選・工夫に努めている。

教職員の回答の100%が肯定群であった。

一方、保護者の設問⑨「教科の基礎・基本や学力向上に向けて積極的に取り組んでいる。」に対する回答の11%（昨年度10%）が否定群だった。また、保護者の設問⑬「（子どもが）授業が分かりやすいと言っている。」に対する回答の11%（昨年度21%）が否定群であった。

授業では、授業スタンダード（めあて、まとめ、振り返りを位置づける）を教職員で確立する。そして、すべての児童が「わかった」と充実感を持たせるように授業改善に取り組んできた。

さらに、児童一人一人のつまづきを把握し、個別最適な学びを進めていく必要がある。これまで行ってきた「のびっこテスト」を活用し、児童の基礎・基本の定着を図るとともに、ICTを効果的に活用した授業改善を進め、わかる授業に取り組むことに続けて努めていく。

16 安全に生活できるように施設設備・防災・不審者対応を徹底している。

教職員の回答の100%（昨年度78%）が肯定群であった。

保護者の設問⑤「施設・設備など安全な生活ができるよう環境整備ができていく。」に対する回答の約5%（昨年度8%）が否定群だった。

引き続き、児童が安全な環境で教育活動ができるよう、日々の点検を行うとともに、毎月行う施設の安全点検で、修理する箇所を早急に見つけ、修理したり、町教委へ改修を要望していく。そして、地震津波避難や不審者対応についてのマニュアルを逐次具体的に見直し共通理解し備える。

17 あいさつの励行を積極的にすすめている。

教職員の回答の100%（昨年度78%）が肯定群であった。

保護者の設問⑭「あいさつができていく。」に対する回答の13%（昨年度18%）が否定群だった。

毎朝のあいさつ運動を行い、校内では元気なあいさつができるようになってきている。児童の中には恥ずかしがって自分から進んでできない子や声が小さい子もいる。「いつでも、どこでも、誰にでも、はきはきと」進んであいさつできる児童を育てていく指導を継続していく。

併せて、授業中のみならず、返事や全校朝会・集会活動での発表などの機会を捉え、適切な声の大きさを発声するための指導を続けていく。

18 働き方改革や業務改善に向けた意識改革や取り組みが行われている。

教職員の回答の100%（昨年度86%）が肯定群であり、否定群が0%（昨年度14%、一昨年度8%）であった。学校における働き方改革・業務改善は、教職員の勤務時間が法律の規定を大きく超えていることを改善するとともに、子どもと向き合う時間を確保し、教育の質を高めるため、そして教職員自身のワークライフバランスの最適化の実現のための最重要課題である。昨年度より校務支援ソフトを利用した勤務時間管理による時間外在校時間の縮減と、会議資料のデジタル化（ペーパーレス化）をはじめ会議時間と労力の縮減、教育活動の可能なコンパクト化、休暇の取得推進を中心に取り組んできていくが、まだまだ十分とはいえない。さらに有効な対策を工夫し、改善していく。